

倉敷芸術科学大学 防災マニュアル



この防災マニュアルは、災害が発生したときに、的確な行動がとれることを目的として作成しています。万が一に備え、このマニュアルを**良く読んで**おいてください。また、このマニュアルは**常に携帯して**、もしものときに役立ててください。

学外で地震が起きたら

1 自宅にいるとき

- 机の下などに隠れて身の安全を確保する。余裕があれば、ドアや窓を開けて、逃げ道を確保する。
- エレベーターは使わず、階段を使って避難する。
- 調理中、すぐ火を消せるときは火を消し、ガスの元栓も閉める。大きな揺れの場合は、身を守ることを優先し、揺れが収まってから火を消し、ガスの元栓を閉める。調理中でなくても、避難するときには、ガスの元栓を閉める。
- 電気製品のコンセントを抜き、ブレーカーを切ってから避難する。(地震による停電後、電気が復旧したときに家電がショートして火災になることがあるため。)

2 路上にいるとき

- カバンなどで頭部を守り、ガラスや看板などのある場所から離れる。
- 倒壊の危険性があるので、ブロック塀や石壁、電柱などから離れる。
- 屋根の瓦なども落下する危険性があるので、建物などに近づかない。

3 地下にいるとき

- 慌てず、大きな柱や壁に身を寄せ、揺れが収まるのを待つ。
- パニックで出口に人が殺到する可能性があるが、地下街の出口は約 60m おきにあるので、落ち着いて安全な出口を探し、避難する。
- 火災が発生したら、ハンカチなどで鼻と口をおおい、体を低くして、壁づたいに地上へ避難する。

ケガ等の応急処置

次のような場合は、ただちに教職員及び消防署に連絡をとり、身の安全を確保した上で応急処置を施しつつ、救急隊の到着を待つ。

●出血している場合

きれいなガーゼやハンカチ、タオルなどを傷口に当て、その上から手で圧迫する。ただし、血液に直接触れないように、できるだけビニールの手袋やビニール袋などを使用すること。

●骨折している場合

- どこが痛いかを聞き、目視で確認する。痛がっているところを動かしたり、変形しているところを無理に元の形に戻したりしないこと。
- 骨折部位を、そえ木や三角巾などで固定し、可能なら患部を高くする。そえ木がない場合は、雑誌や新聞紙で固定する。
- 首の骨(頸椎)を痛めている可能性があるときは、両手で頭を固定し、首が動かないようにして、救急隊に引き継ぐまで不要な移動を行わないこと。

●ヤケドを負った場合

- できるだけ早く、水道水などの清潔な流水で約 15～30 分間冷やす。
- 衣類の上からヤケドした場合は、衣類をめくったりせず、衣類ごと冷やす。
- 氷やアイスバックを使って冷やすと、冷えすぎてしまい、かえって悪化することがあるので注意すること。
- ヤケドの応急処置では、油や軟膏などを塗らないこと。

学内で地震が起きたら

1 教室の中にいるとき

- 机の下などにもぐる(無理ならカバンや衣類などで頭を守る)。
- 窓ガラスの飛散に備え、窓から離れる。
- 教職員の指示があるまで、むやみに屋外に出ない。
- ドアの近くにいる人は、出口確保のため、ドアを開ける。揺れが激しい時は、揺れが収まってからドアを開ける。

2 実験室、作業室等にいるとき

- 揺れにもよるが、実験中などで火を扱っていた場合、身の安全を確保した上で、火を消す。揺れが激しい時は、揺れが収まってから火を消し、ガスの元栓を閉める。
- 机や作業台の下などにもぐる(無理ならカバンや衣類などで頭を守る)。
- 薬品庫・ロッカーのそばから離れる。
- 火災が発生した場合は、近くの教職員に連絡を行い、避難する。

3 廊下にいるとき

- カバンや衣類などで頭を守る。
- 窓ガラスの飛散、掲示板などの落下の危険性があるので、廊下の真ん中、もしくは近くの部屋に避難する。
- ロッカーなどの転倒や落下物に気をつける。

4 海岸・川べり等にいるとき

- 揺れが収まったら、速やかに安全な場所に避難する。特に海水が沖に引いていった場合は、大きな津波が来る前兆であるため、急いで高台などに避難すること。
- 津波は川をさかのぼってくるので、川べりから遠ざかる方向に避難する。

5 車・オートバイに乗っているとき

- 揺れを感じたら、ハザードランプを点灯させながら、徐々にスピードを落とし、道路の左側に停車してエンジンを切る。急ブレーキは事故につながるため、絶対にしない。
- 揺れが収まるまでその場で待機し、ラジオなどで情報を収集する。
- 車・オートバイから離れるときは、車検証などの貴重品を持って窓を閉め、鍵をつけたままにし、ドアロックもしない。(緊急時に移動させることがあるため。)
- 避難をするときは、原則徒歩で避難する。

6 バス・電車に乗っているとき

- 座っているときは前屈みになって、前の背もたれをつかむ。
- 落下物に注意し、カバンなどで頭を保護する。
- 立っているときは、つり革やシートをしっかりとつかんで、転倒に気をつける。
- 車外へ出るときは、乗務員の指示に従い、他の車に注意して避難する。

●ガスが発生した場合

- ガスを吸わないようにして、窓を開ける。
- ガスの元栓を閉める。
- 爆発の危険性があるので、電気や換気扇のスイッチは、切ったり入れたりしない。
- 傷病者がいれば、安全な場所に連れ出す。必要に応じて、心臓マッサージなどを行う。

●意識不明者がいる場合

- 近くに人がいるときは呼び集め、119 番通報を行う(依頼する)。また近くに AED がある場合には、取りに行ってもらおう。
- 呼吸していない場合は、直ちに心臓マッサージを開始する。心臓マッサージは、胸の真ん中に手を置き、肘をまっすぐ伸ばして、手の付け根の部分に体重をかけ、少なくとも胸が 5cm 沈むほど強く圧迫する。1 分間に 100 回の速いテンポで心臓マッサージを行う。疲れたら別の人に代わってもらい、AED や救急隊の到着まで継続すること。
- AED が到着したら、AED の指示に従って心肺蘇生を行う。
- 普段どおり呼吸している場合は、気道の確保を続けて救急隊の到着を待つ。やむを得ず意識不明者のそばを離れるときは、嘔吐物などによる窒息を防ぐため、意識不明者を横向きに寝かせる。

4 階段にいるとき

- 手すりなどにつかまり、体を安定させ、落下物に気をつける。

5 運動場・体育館にいるとき

- まわりに落下物や倒壊物がないことを確認して、揺れがおさまるまで、その場で低い姿勢を保つ。
- 体育館の場合、天井からの落下物に気をつける。

6 エレベーターの中にいるとき

- 全ての階のボタンを押し、停止した階でエレベーターから降り、階段を使って避難する。
- 途中で停止してエレベーター内に閉じ込められた場合は、エレベーター内の非常ボタン・インターホンなどを使って、外部と連絡をとり、救助を待つ。

7 キャンパス内の庭や駐車場にいるとき

- まわりに落下物や倒壊物が無いことを確認して、揺れがおさまるまで、その場で低い姿勢を保つ。

※建物内での避難途中で負傷者を発見したら、建物外に出た後で、教職員に連絡する。



各種警報が発令された時の授業・試験の取り扱い

1 岡山県南部に暴風警報又は特別警報が発令された場合

暴風警報又は特別警報が発令された場合、全ての授業・試験を休講とする。ただし、警報が解除された場合は、解除時刻により下記のとおり授業を実施する。

警報解除時刻	授業・試験への対応
午前 7 時までに解除	平常授業
午前 11 時までに解除	3 時限から授業開始
午前 11 時以降に解除	終日休講

2 その他の緊急事態の場合

地震、風水害、雪害等の緊急事態が発生し、授業・試験に支障があると学長が判断した場合は、教務課より休講の指示を行うので、これに従うこと。

※地域により、災害の状況や交通事情が異なるので、警報の発令が予測される場合を含め、登校することが困難もしくは危険と感じられる場合は、無理をせず自宅待機とすること。その場合、後日必ず科目の担当教員に欠席の事情を報告すること。

なお、休講となった授業・試験については、後日補講等を行うので、掲示板等を確認して見ること。



震災への備え

自然災害には、いつ遭うか分かりません。日頃から備えをしておきましょう。

非常持出品	非常備蓄品
<input type="checkbox"/> 携帯ラジオ <input type="checkbox"/> 懐中電灯 <input type="checkbox"/> 予備電池 <input type="checkbox"/> 雨具 <input type="checkbox"/> 貴重品 <small>現金(10円玉：公衆電話用)・預貯金通帳・印鑑・免許証・健康保険証・携帯電話など</small> <input type="checkbox"/> 非常食など <small>ミネラルウォーター・乾パン・缶詰・缶切り・水筒・紙皿・紙コップ・割り箸・栓抜き・食品用ラップなど</small> <input type="checkbox"/> 衣類 <small>下着・タオル・軍手・マスクなど</small>	<input type="checkbox"/> 救急医療品 <input type="checkbox"/> 生理用品 <input type="checkbox"/> 紙おむつ <input type="checkbox"/> ウェットティッシュ(ティッシュ) <input type="checkbox"/> 燃料 <small>卓上コンロ・ガスボンベなど</small> <input type="checkbox"/> その他 <small>生活用水・毛布・寝袋・新聞紙・洗面用具・調理器具・ポリ容器・バケツ・ろうそく・マッチ・簡易テント・ロープなど</small>

災害用伝言ダイヤル171

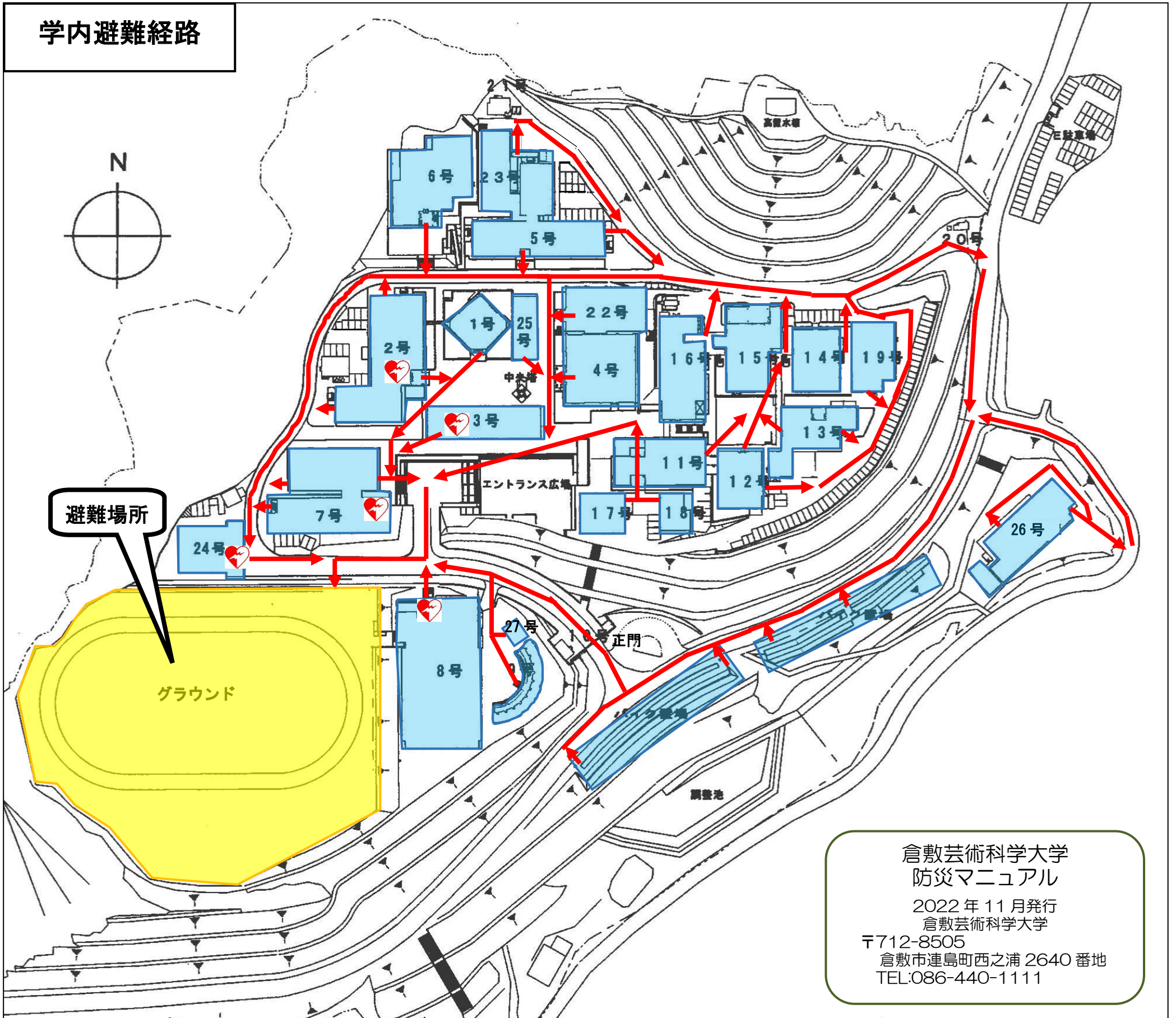
災害発生時には、NTTの災害用伝言ダイヤルサービスが開設される。サービスの開始は、テレビ・ラジオなどで通知される。

伝言の録音 171 → 1 → 電話番号※

伝言の再生 171 → 2 → 電話番号※

※録音の場合は自分の電話番号、再生の場合は再生したい相手の電話番号

学内避難経路



倉敷芸術科学大学
 防災マニュアル
 2022年11月発行
 倉敷芸術科学大学
 〒712-8505
 倉敷市連島町西之浦 2640 番地
 TEL:086-440-1111

- : 避難場所
グラウンド
- ➔ : 避難経路
路面や周囲の建物の状況に注意して、安全に通行できる経路を選択し、教職員の指示に従い、迅速に避難を行う。
- ♥ : AED 設置場所
 2号 1階
 3号 1階 庶務課前
 7号 4階 運動科学実験室
 8号 (体育館) 2階玄関東面 (外階段)
 24号 1階 健康科学実習室

大学への連絡方法

学外で災害等に遭遇した場合は、必ず大学に連絡すること。

連絡先 (いずれかに連絡すること)

- 学務部
 学生課 086-440-1122
 又は
 086-440-1123
 教務課 086-440-1117
- 代表電話 086-440-1111
 (庶務課)
- チューター又は指導教員

氏名
電話番号

本人の情報

フリガナ		
氏名		
学生番号		
生年月日		
血液型		
住所		
電話番号		
持病	常用薬	アレルギーの種類
緊急時の連絡先 (本人との続柄)		

メモ帳